コーピングユーモアの3タイプとその個人差測定を試み

— 回避・攻撃・視点転換 —

○吉田昂平¹・雨宮俊彦²

(¹ 関西大学大学院社会学研究科・² 関西大学社会学部)

キーワード: ユーモア, コーピング, 精神的健康

An attempt to measure the individual differences in three types of coping humor

: Avoidance, aggression and perspective taking.

Kohei YOSHIDA¹ and Toshihiko AMEMIYA²

(¹ Graduate School of Sociology, Kansai University, ² Faculty of Sociology, Kansai University)

Key words: humor, coping, mental health

目 的

ユーモアには well-being にネガティブなものもあるという考えは, Martin, Puhlik-Doris, Larsen, Gray, & Weir (2003)の作成した Humor Styles Questionnaire (HSQ)により, 一般的になりつつある。その中で, コーピングユーモアは well-being にポジティブなものとして捉えられ, Coping Humor Scale (CHS: Martin & Lefcourt, 1983)に代表される, 様々な尺度がコーピングユーモア測定のために開発されてきた。しかし, コーピングユーモアの種類はあまり検討されてこなかった。Martin (2007)は, ユーモアの精神的健康への影響は, どの社会的文脈で, どのタイプのユーモアを使うかで異なるとしている。この指摘から, 様々な場面の対処のために使うコーピングユーモアも, その種類によっては, well-being との関連が変わる可能性がある。そこで, 本研究ではコーピングユーモアの種類を検討するために, Doosje, Landsheer, de Goede, & van Doornen (2010)が特定のコーピングユーモアを測定する尺度としたものの中から, 3本の尺度の項目と新たに独自に作成した項目から Coping Humor Questionnaire (CHQ)を独自に作成する。加えて, 他尺度との関連から併存的妥当性も検討する。

方 法

調査時期 2011年12月16日

調査参加者 心理学専攻の大学生 136名の中から CHQの全項目に回答した 129名 (男性 55名, 女性 74名; 年齢 19歳-24歳, $M=20.36$, $SD=.96$)を分析対象とした。他尺度との相関分析では, 全尺度の項目に回答した 114名 (男性 50名, 女性 64名, 年齢 19歳-24歳, $M=20.34$, $SD=.96$)を分析対象とした。

質問紙作成 The Waterloo Uses of Humor Inventory (WUHI: Thomas, 2000), The Relational Humor Inventory の instrumental humor scales と partner instrumental humor scales (RHI-I と RHI-PI: De Koning & Weiss, 2002), Questionnaire of Occupational Humorous Coping (QOHC: Doosje, de Goede, van Doornen, & Goldstein, 2010)の項目を著者2名と大学生2名が日本語訳し, 新たに KJ法で追加項目を作成した。2回の予備調査の結果, 31項目, 7件法とした。

質問紙 今回, 使用した尺度は, CHQ, Big5 形容詞短縮版 (山本・清水, 2007), 自尊感情尺度 (山本・松井・山成, 1982), POMS 短縮版 (横山, 2005), 愛着尺度 (加藤, 1998), 日本語版主観的幸福感尺度 (島井・大竹・宇都木・池見・Lyubomirsky, 2004), HSQ (Martin et al., 2003), 許し尺度 (加藤・谷口, 2009)であった。なお, 全ての分析は SPSS Statistics 19.0で行った。

結 果

因子構造の検討 因子構造を検討するため, 探索的因子分析を行った (主因子法, プロマックス回転)。固有値と因子の解釈から3因子が適切であると判断した。3因子は, 全て, WUHIと対応した因子であった。第1因子はネガティブな感情や問

題から離れ, 紛らわすユーモアであるため「回避的コーピングユーモア (10項目: 以下, 回避)」, 第2因子は攻撃することでネガティブな感情を晴らすユーモアであるため「攻撃的コーピングユーモア (12項目: 以下, 攻撃)」, 第3因子は視点を変え, ストレスへの評価を変えることで, ネガティブな感情を調整するユーモアであるため「視点転換的コーピングユーモア (8項目: 以下, 視点転換)」と名付けた。因子間相関は高くても, やや中程度の正の相関であった (.002-.39)。

下位尺度間相関と信頼性 どの下位尺度も視点転換とのみやや中程度の有意な正の相関が得られ, 因子間相関とほぼ同じ結果であった (.03-.40)。そのため, 因子分析結果を反映した尺度であるといえた。下位尺度の信頼性は, $\alpha=.83-.92$ と十分な水準であった。

併存的妥当性 「回避」は big5 の開放性と協調性, 自尊感情, POMS の活力, 安定型愛着, 主観的幸福, HSQ の自己高揚的ユーモアと自虐的ユーモアと有意な正の相関が得られた。「攻撃」は POMS の敵意と怒り, 安定型愛着, HSQ の攻撃的ユーモア, 許し尺度の恨みと有意な正の相関, big5 の協調性と有意な負の相関が得られた。「視点転換」は, big5 の外向性と開放性, 自尊感情, POMS の活力, 安定型愛着, 主観的幸福, HSQ の親和的ユーモア, 自己高揚的ユーモア, 攻撃的ユーモア, 自虐的ユーモア, 許し尺度の寛容と有意な正の相関, big5 の情動性, 恐怖型愛着と有意な負の相関が得られた。

考 察

因子分析の結果, WUHIと対応した3因子が認められた。信頼性が十分なレベルにあり, 因子分析結果に対応した尺度であるといえる。他の尺度との相関関係から, 「回避」は自己を励まし, 活力もあり, 問題から一時的に逃げることで活力を取り戻す「回避」として妥当であるといえる。「攻撃」は, 攻撃的ユーモアや恨みと関連し, 「攻撃」として妥当である。ただし, 協調性は低い, ユーモアによる攻撃であるため, 他者との関係は安定していると思われる。「視点転換」は問題への評価を変えるためにユーモアを使うという積極性があるため, 情動も安定し, 寛容さも持ち合わせていることから, 他の2つよりポジティブなユーモアであるといえ, 「視点転換」として妥当であるといえる。また, 自らの失敗を笑って気を晴らすという項目が多く, 自己客観視のユーモアと関連する可能性があった。神村・海老原・佐藤・戸ヶ崎・坂野 (1995)によるコーピング3次元分類の枠組みに当てはめれば, 「回避」は情動-回避-認知・行動, 「攻撃」は情動-関与-行動, 「視点転換」は情動-関与-認知と, それぞれ対応させる事ができる。本尺度は, ユーモアによるコーピングの諸タイプを適切に分類したものといえるだろう。

謝 辞

本研究は, 岡本友紀さん, 大川裕介さんに, ご協力いただきました。ここにお礼申し上げます。